

校内研究会 9月25日

低学年分科会授業提案

第2学年 道徳 主題名「すなおな気持ちで」 1-(4) 誠実・明朗

資料名 おつきさまとコロ (光村図書出版株式会社)

指導者 仁多 史子

授業の流れ

- 1 すなおになれなかったことがあるか、話し合う。
- 2 「おつきさまとコロ」を読んで話し合う。
- 3 自分たちのことについて考える。

協議会

<分科会提案>

ねらいとする価値にせまるために、児童が自分自身を振り返りやすい資料と、その内容に沿ったワークシートを活用した。また、主人公の気持ちに共感させやすい板書や掲示資料を工夫した。

<自評>

- 子供たちに自分自身も素直であることを分かせたかった。そのために資料の“顔”の表情にこだわって授業を組み立てた。
- 素直でないと顔の表情が変わってしまうことにこだわって質問を考えた。
- コロの気持ちのおさえ方が曖昧になってしまった。
- 子供たちが資料内容を理解できていない所もあったので、資料に戻って説明を加えた。
- この資料を選んだ理由として、「へりくつをこねないで素直に謝ること」が人との関わりでは一番必要だと思った。

<協議>

- 顔に注目させたのがよかった。板書の絵は資料とよくマッチしていて分かりやすかった。
- 結果的に、ワークシートにねらいが上手く書けるようになっていた。短時間で書けていた。
- 前段で4つの発問は多いと思うが、資料の場面を3つに分けて考え、各場面と、2場面と3場面の間の主発問で4つとなった。
- 範読はとても気持ちが入っていて聞きやすかった。子供同士の話し合いが効果的だった。自分を見つめる時間があるとよかった。
- 資料は基本的に配らない。副読本の他の所を見ず、また、国語的にならず資料に書いていないところから自分の思いを反映して考えやすいようにするため。絵を実物投影機で映している。
- 資料の扱い方や取り上げ方は学年によって異なるので、そこを研究することも必要ではないか。

指導・助言

講師 赤堀 博行 先生

- 話す・聞くに関しては、話し手の顔をしっかり見ていてとてもよい。
- 本日のねらいが児童観（児童の実態）の中にも具体的に表現されているとよい。
- コロの気持ちを通して「自分だったらどうしたらよいのか」を考えるのが基本。今の自分はどうかを考えてから、2人の思いにつなげていく必要がある。建前にならないようにする。
- 自分だったらどうか、日頃の子供たちの様子から何を考えさせたいのか明確にする必要がある。そのため、質問の内容も個数も限られてくる。
- ペアでの話し合いは、道徳的価値を意識して話し合いをさせ、理解を図る（価値理解・人間理解・他者理解）。また、自分と同じ所、違う所を大切にしていく。
- 「顔」を絵に表すワークシートによって、文で書くよりも短時間で取り組むことができる。振り返りでも利用できる。ただし、顔を描かせる意図を明確に示す必要がある。
- ICTの活用はとてもよかった。
- 自分のことを考えるときに顔の表情が出ていると、邪魔になってしまうことがあるので、シルエットにする方法もある。
- 心情と判断のどちらにポイントを置くのかを明確にして、ねらいに即した発問を心がけたい。
- 最後のまとめは先生の話の聞きかたがよかった。

